医療の届かないところに医療を届ける

Japan Heart

ジャパンハートニュース

Vol.06
2019 年夏号

Japan Heart News

Topics

- 医療現場の体制を整備しながら小児がん治療を進めています（カンボジア）
- 毎月続ける孤児院の出張診察　～ワッチェ慈善病院～（ミャンマー）
- ミャンマー初の小児生体肝移植成功　～ミャンマー専門医療プロジェクト～（ミャンマー）
- 子どもたちの日本訪問　～養育施設Dream Train～（ミャンマー）
- ウドムサイ県病院での活動のご報告（ラオス）
- インドネシア スラウェシ島地震支援のご報告（国際緊急救援）
- 「自分は大事にされている」と思ってもらえるかかわりを（SmileSmilePROJECT）



Photo by Junji Naito

特定非営利活動法人 ジャパンハート

CAMBODIA-カンボジア

医療現場の体制を整備しながら多くの患者を受け入れ小児がん治療を進めています



ジャパンハートこども医療センターで小児がん治療がスタートして約半年が経ちました。年間受け入れ患者数は、当初の予想を大幅に上回り、現在、累計23名になりました。今後さらに患者が増えていくであろうことを鑑み、昨年12月からは日本の小児外科専門チーム（※）をほぼ毎月、当院に招へいし、小児がんの手術活動と現地医師への指導を実施しています。

ジャパンハートの奨学金制度「夢の架け橋プロジェクト」で大学を卒業しこの1月から医師としての活動を始めたネアのほか、奨学生の看護師6名も引き続き医療現場で活躍しています。新人看護師からベテランの主任看護師まで、現地の医療人材の層も徐々に厚くなってきました。



今年の6月末には病院の敷地内に給食センターが完成し、入院中の子どもたちに、安全で栄養バランスの取れた給食提供が始まります。カンボジアでは、栄養、衛生の教育が不足しており、多くの人がその概念を持ち合わせていません。給食センターは、患者への病院食の提供だけでなく、ゆくゆくは地域住民も巻き込んだ“栄養”と“衛生”を教育する場になることを目標としています。



周産期部門も活動が急速に拡大しています。2018年の妊婦健診受診者数は1年前の約2倍に。妊婦健診を受ける必要性が地域に根づいてきました。母親学級で学んだ妊婦の数も1年で3倍以上に増加。当院と連携しているポンネルー病院で出産後、母親と新生児には、当院に入院してもらい産後の健康チェックやケア、退院前の指導を受けてもらっています。その数も2.5倍に増え、病院には毎日のように母親と新生児が入院してきます。

当院は、開院から8カ月で、外来診察を受けた子どもの数は1,652人、小児外科手術は195件でした。活動を支えてくださっている皆さまに心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

※小児外科専門チーム……手術活動のご協力機関は、大阪大学、岡山医療センター、九州大学、慶應義塾大学。今後、さらに多くのチームにご協力いただく予定です。

命と向き合う時間



神白麻衣子 医師

これまで、私たちは多くの命を救うことができました。一方、手を尽くしても救えなかった命もあります。こぼれ落ちていく命に向き合うことに苦労しているスタッフがいる中で、3月の月例のミーティングでは、院長の神白麻衣子医師が、最前線で活動する医療スタッフに次の言葉を宛てました。

「治療の効果がどうしても出ないこともあります。それでも患者さんやそのご家族に、“私たちは最後まで見捨てられなかった、最後まで面倒をみてくれてありがとう” そう感じてもらえれば、治療した甲斐があったと考えます。もし命が助からなくても、患者さんと家族の心を救うことは、ジャパンハートが大事にしていることです。辛い時は一人で抱え込まず、周りの人に相談しながら、みんなで頑張っていきましょう」

ご報告



妊婦健診の受診数・産後のケアを希望する母親の数が大幅に増加したにもかかわらず、滞りなく運営できたのは多くのご寄付のおかげです。

MYANMAR-ミャンマー

医療の届かないところに医療を届ける　～ワッチェ慈善病院～



「医療の届かないところに医療を届ける」。ミャンマーにはワッチェ慈善病院へのアクセスすら難しい人々がいます。ワッチェ慈善病院は、病院内での活動にとどまらず辺境地や孤児院などの出張診察なども行っています。

2018年10月よりサトゥボンミカ僧院孤児院へ出張診察を行い、3歳から15歳の延べ200人の子どもを治療しています。じっとりと汗ばむ暑さの中迎えた診察初日。頭から膿が出ている子、頭髪がなくなっている子、身体中をかきむしって傷だらけの子など、100人が待っていました。これらの皮膚の病気の原因は、ミャンマーの衛生環境です。ミャンマーは高温多湿で汗をたくさんかきますが、日本のように入浴の習慣がなく、腰布を巻いたまま桶で水をかけて洗います。さらに孤児院には子どもの世話をする僧侶は数人しかおらず、きちんと水浴びの指導もできていないこと、子どもは皮膚が弱く、共同生活で感染症が広がりやすいことも要因です。

沢山の仲間たちの協力により、半年で病気の子どもは10人までに減りました。さらに予防のため頭の洗い方、体の洗い方を看護師たちに教えに行ってもらっています。この保健指導のおかげで、孤児院の水浴びは1日1回だったのが2回に増え、お坊さんが水浴びの横で指導して、ちゃんと洗わない子は怒られています。

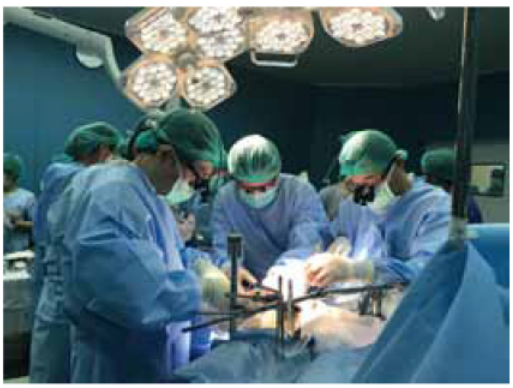
初めて会った時はつるつるに禿げていた3歳の子の頭には芝生のような元気な毛が生えてきて、ひと安心しました。といっても、彼らは大きくなれば坊主になるので、本人たちはあまり気にしていない様子でしたが。

一つひとつの命を繋いでいく「ミャンマー初の小児生体肝移植」
～ミャンマー専門医療プロジェクト～



2019年3月17日、ミャンマーの医療界にとって歴史的に大きな一歩を踏み出しました。約12時間に及ぶ日本とミャンマー合同の専門医療チームによる、ミャンマー初の小児生体肝移植が、無事に成功。これによって胆道閉鎖症という病気により肝移植でしか生きる道のなかった5歳の男の子に、父親から肝臓の一部を移植し、みんなの力によって無事に一つの命を繋いだのです。手術が無事に終わっても、移植手術後には拒絶反応との戦いという、大きな壁もありますが、ミャンマーの医師たちの懸命な治療により、この男の子は順調に回復しています。

日本ではすでに治療が確立している小児の肝臓移植。でもミャンマーでは肝臓移植を必要としながら、国内ではそれができないために命を落とす子どもが多くいます。ジャパンハートは、この状況を何とかしたいと願うミャンマー保健スポーツ省やミャンマーの医師たちからの協力依頼を受け、約2年半前から準備を進めてきました。



そして九州大学病院の小児生体肝移植チームの全面的な協力を受け、ようやく辿り着いた大きな大きな一歩でした。

しかしその間も、時は人を待たずこぼれ落ちていった命があったのも事実です。そして今も、肝移植を待っている子どもたちがいます。その中には、もうあまり時間のない子もいます。

様々な困難と葛藤がありつつも、私たちは次の準備を進めています。「一つでも多くの命を繋ぎたい！」それが私たち日本とミャンマーの医療チームの願いです。

子どもたちの日本訪問 ～養育施設Dream Train(ドリームトレイン)～



桜が開花し始めた3月後半、医師の方々が中心となり設立された団体「KURIKINDIES」様のご支援により、8名の子どもたちが日本を訪問しました。観光のほかに、企業や大学でのコンピューター・プログラミング体験会。パフォーマンスチームによるダンス発表や音楽鑑賞、スポーツ大会など刺激的なイベントが盛りだくさんの6日間でした。

中でも強く子どもたちの思い出に残ったのは、日本人の学生とともに行ったワークショップ。「自分の身の回りで起きている問題」というテーマで意見を出し合いグループ発表を行う中で、日本人の子どもたちは、いじめ・虐待・労働時間・飲酒運転・地球温暖化などを問題だと感じており、ミャンマーの子どもたちは、停電や断水が多いこと・ごみの多さ・家族の問題・学校へ行けない子が多いことを問題として感じていることが分かりました。

Dream　Trainの子どもたちは「日本は発展していて問題のない国だと思っていたけれど、同じようにたくさんの課題や解決しなければいけない問題を抱えているんだ!みんな同じなんだ」と興奮した様子で話しており、日本の子どもたちからは「世界中の人たちがこうやって話し合うことができたら、世界は平和になると思う」という感想が聞かれました。

また、3月～5月の子どもたちの長期休暇中は、日本訪問だけではなく、ご支援くださる皆さまのおかげで、全児童参加の宿泊付き遠足や職場見学・職業体験など、様々なイベントを開催することができました。

ご報告





昨年末に行ったクリスマス募金により、施設の屋根の「雨どいの修理」と「洗濯機の購入」ができました。子どもたちの安全で衛生的な生活を守るために、今後もご寄付を大切に使わせていただきます。

LAOS -ラオス　ウドムサイ県病院での活動のご報告

前回に引き続き、3月、ウドムサイ県病院で手術活動と内科診療活動を行いました。今回の活動はジャパンハートの各活動地(ミャンマー、カンボジア、ラオス)のコラボレーションで行われました。

カンボジアからは日本人医師とカンボジア人スタッフの2名による手術活動で、計6名の甲状腺疾患の患者さんに医療を届けることができました。そして、内科診療活動では、ミャンマーからワッチェ慈善病院の日本人医師、カンボジアから日本人の看護師が駆けつけ、約60名の診療を行いました。

患者さんが手術後に家族と面会した時の安心した表情と嬉しそうな笑顔が印象に残りました。また、ラオスのスタッフにとっては各活動地のメンバーから出る意見によって、新たな視点を持つ機会となりました。次回は5月に吉岡秀人医師による手術を予定しています。





ジャパンハートのラオスの活動として将来的には小児医療を展開していくことを目指しています。カンボジアで小児病棟が開院されたように、ラオスでもより多くの子どもたちに医療を届けられるよう今後も活動を進めていきたいと思います。

特定非営利活動法人 ジャパンハート

SmileSmilePROJECT

「自分は大事にされている」と思ってもらえるかかわりを



各ご家族の旅行に付き添う個人企画に加えて、SmileSmilePROJECT（以下、SSP）の吉岡春菜医師・岸川看護師・金看護師が研修や学会に積極的に参加することができました。SSPのインタビュー動画も完成したため、これから皆さんに少しずつお届けする予定です。

私たちは、今後ご依頼や関わる人が増えたとしても、SSPの理念でもある「子ども、きょうだい、家族が"自分は大事にされている"と思ってもらえるようなかかわり」を大切にし、活動を進めてまいります。

2018年後半～2019年前半のSSP活動実績



■2018年10月：大自然阿蘇健康の森ご招待企画（新日本製薬株式会社協賛）、家族で楽しむコーヒーセミナー＠TSURUMIこどもホスピス

■2018年11月：キッザニア東京ご招待企画（ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社協賛）、小児がん看護学会にてSSP報告、個人企画～立川花火大会で花火が見たい～（シスメックス株式会社協賛）

■2018年12月：SSP映像報告会＠大阪

■2019年 1月：個人企画～TDSでトイストーリーマニアに乗りたい～（シスメックス株式会社協賛）

■2019年 2月：個人企画～Dくんに会いたい～（シスメックス株式会社協賛）、小児緩和ケア研修参加（スタッフ２名）、小児がんフェスタ参加（スタッフ１名）、小児がん写真展実施（株式会社大和ネクスト銀行協力）、個人企画～アンパンマン・パンダに会いたい～（シスメックス株式会社協賛）

■2019年 3月：SSP映像報告会＠東京、病院がプラネタリウム（大阪市立大学医学部附属病院・淀川キリスト教病院・大阪大学医学部附属病院・大阪母子医療センター）（シスメックス株式会社協賛）

■2019年 4月：SSPボランティア説明会



iER-International Emergency Relief- 国際緊急救援

インドネシア・スラウェシ島地震支援のご報告



2018 年 9 月 28 日、インドネシアのスラウェシ島にて M7.5 の地震が発生。パル市周辺の沿岸部に押し寄せた津波や大規模な液状化が多くの命を奪い、街に壊滅的な被害をもたらしました。

ジャパンハート国際緊急救援では、10 月 13 日～15 日に現地にスタッフを派遣し、被害状況および支援ニーズの調査を行いました。その後、10 月 31 日～11 月 16 日の期間、ジャパンハート災害ボランティアに登録する医師ら 14 名を現地に派遣し、現地医療者の診療診察サポート（患者数 770 名）、食料配付（235 世帯分）および衛生用品配付（216 世帯分）支援を行いました。

ジャパンハート災害ボランティアに登録する人は登録の際に、災害時の支援に関する基礎知識や安全管理などをテーマにした研修を受講しています。しかし、現地での活動は初めてという方も多く、スタッフもボランティアの皆さんも日々試行錯誤しながら、被災地の「医療の届かないところに医療を届ける」活動を行いました。



また、約 2 週間の活動終了後、現地カウンターパートである PKPU と被災地を再調査した結果、シギ県クラウィ地区ナモ村は土砂災害で孤立しており、仮設住宅の建設が急務であることが判明したため、仮設住宅建設資材の提供も 18 世帯分行いました。資材の配付、モニタリングを終了した 2019 年 3 月末をもって、インドネシア・スラウェシ島でのすべての支援を終了しました。

本支援事業にご支援、ご協力いただきました皆さまに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

おしらせ



吉岡秀人の話が聞ける、貴重な機会。
皆さまのご参加、お待ちしています！

15周年記念講演会を開催します

6月22日（土）15時から、ジャパンハートの創設15周年を記念して、創設者の吉岡秀人医師による講演会「つながる“いのち”～過去・現在・未来～」を開催します。
会場は東京の築地本願寺。講演会は、築地本願寺様が「生活の中から仏教を知る」をテーマにを実践されている「仏教文化講座」とのコラボレーションです。
詳細はジャパンハートのホームページ内「イベントスケジュール」からご覧ください。
※申し込みは不要です。



病院の見学や、スタッフ・患者さんとの交流など、盛りだくさんの内容です。

会員・支援者限定ツアーの開催

皆さまのご支援が、現地でどのように使われているかをご覧いただける会員・支援者様限定ツアー。好評につき今年も実施します！ 時期は10月下旬～11月上旬の予定。詳細情報は6月頃、ジャパンハートのホームページに掲載します。

AC JAPAN

多くの皆さまに、ジャパンハートの活動を知っていただけますように・・・

ACジャパン支援キャンペーンが7月からスタートします！

ジャパンハートは、ACジャパンの支援キャンペーンに採択され、7月からテレビCMが放送されます！そのほか、ラジオCM、関東圏の電車内広告、駅ポスター掲示などの広報もスタートします。皆さん、ぜひご注目ください！

ご寄付について

いつもあたたかいご支援をいただき、ありがとうございます。皆さまに支えていただき、「医療の届かないところに医療を届ける」活動を続ける事ができております。今後ともジャパンハートの活動に、ご理解とご支援をいただけますよう、お願い申し上げます。

1.銀行振込
ネット銀行や窓口などから、右記宛に送金をお願いいたします。
できればお名前もご記載ください（匿名も可能です）。

2.郵便振込み
同封の振込の払込取扱表をお使いいただき、郵便局からの振込みをお願いします。

3.クレジットカード
ジャパンハートのホームページ内、「寄付をする」のページよりオンライン決済をご利用ください。

【銀行振込先】
銀行名　ゆうちょ銀行
預金種目　　当座
金融機関コード 9900
店名　〇九九店（ゼロキュウキュウ）
店番　099
口座番号　　0166806

※2019年内にご寄付いただいた方は確定申告にて「寄付金控除」を受けることができます。
（その際、お送りした領収書が必要になりますのでお手元に保管をお願いします。）
※認定NPO法人ジャパンハートへのご寄付は、寄付金控除の対象となります。
※ご寄付に関しての詳細は左記QRコードよりご確認いただけます。

Japan Heart

お問い合わせ　　特定非営利活動法人 ジャパンハート
〒110-0016　東京都台東区台東1-33-6　セントオフィス秋葉原10階
Tel：03-6240-1564　Fax：03-5818-1610　E-Mail：info@japanheart.org　HP：https://www.japanheart.org

※本郵送物は総務省の指導により私信ではない郵送物として送付しています。

（2019年6月1日発行）